

Title	デダン語(前古典北アラビア語)研究に向けて
Author(s)	高階, 美行
Citation	大阪外国語大学学報. 64 p.283-p.312
Issue Date	1984-03-20
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/80983
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

デダン語 (前古典北アラビア語) 研究に向けて

高 階 美 行

Toward The Identification of Dedanite

Yoshiyuki TAKASHINA

Arabic has a very unique fact in common with its sister language Aramaic that they both are a language still spoken to date whose records can be traced back to the early part of the 1st millennium B.C. Due regard must be paid to this fact in order to make the most of their ample evidence for the study of linguistic evolution. Nonetheless, unlike the latter, it has rarely been credited to Arabic. This is in no way hard to see when we learn that the detailed and reliable information of Pre-classical North Arabic is very scarce, at times mutually inconsistent, and if any, it is scattered among the vast range of technical publications.

To get rid of this situation and recover the Pre-Islamic glorious position Arabic can duly claim, a state-of-the-art overview, as it were, of the agreement and/or disagreement in scholarly opinions is vital with regard to each phase of 'Old Arabic' (C. Rabin's term in *EJ*²): Aribi onomastics, seal cylinders and short inscriptions, Dedanite, Thamudic (incl. Taymanite and Jawfian), Lihyanite, and Safaitic.

As for Dedanite this is all the more urgent inasmuch as an inscription has been variously labelled (D, L or DL). In what follows is given "The D/L Classification Table and Concordance" to provide a clear idea of the whole material for the study of D and L. It shows the judgement of GDL, WLT, CLL, BID, WR and JMIL concerning each inscription/graffito in detail together with their difference. According to these studies each item is given an evaluation of *Dedaniteness* and *Lihyaniteness* (D₅, D₁L₂, XD_{2α}L₁, etc.). On the basis of such evaluation, the whole inscriptions are classified as follows: those that are D with fair certainty (D57), those that may be D whose data must be used critically (D' 34), those incapable of clear-cut classification (DL 77), those that are L (L 238), those too precarious to count as L (L' 25) and those to be excluded from D/L (8).

Such numerical evaluations are dangerous in a sense in view of the rigorous handling of material exemplified in the works cited above. Yet without such approach to D as always to take *Dedaniteness* into consideration D inscriptions would remain as obscure as ever and unable to contribute to the history of Arabic and of the Semitic languages in the 1st millennium B.C. Linguistic forms and

facts gleaned by such approach will, if not quite new, gain objectivity and reliability.
(For abbr. please refer to the main text.)

0. 序 論

0.1. はじめに アラビア語の歴史の始まる時期に関して深く考えられることは多くないが、少くともアラビア語と確認できる最古の言語形式は前9世紀に遡る。こうした古い資料もイスラム紀元の西暦7世紀頃までは、確かに、断片的で記録された時間の継続性に欠けるし、最古の記録も征服者であるアッシリア人の手による音写ではある。しかし一個の言語の記録された時間的幅としては、前10世紀より現代に至るまでほぼ連続した記録を持つアラム語のそれにアラビア語は比肩しうるものであり、記録もなしに消失した（またしつつある）世界の諸言語の中にあってきわめて稀で幸運な地位を占めている¹⁾。

だがこの事実はしかるべき注目を引くこともなく²⁾、ただ比較言語学者達が各比較文法書の中でサムード語 Thamudic、リフヤーン語 Lihyanite、サファー語 Safaitic 等の名を挙げ簡単な紹介をするに留まっていた³⁾。50年代になってやっと C. Brockelmann⁴⁾ と C. Rabin⁵⁾ の二人がそれぞれアラビア語の歴史全体にわたって詳細に研究の現状を概括して評価し、その中でやや詳しくこれらの言語を説明した。従って前古典北アラビア語⁶⁾ を専門とする数少ない研究者を除けば、一般にこの二つの論文が情報の出所であったが、それ以来20年以上経過した現在ではその全てが信頼しうるとは限らない。Hans P. Roschinski による最近のまとめも前2者に比べれば詳細を尽しているが、言語形式そのものに触れるところは少ないし歴史の再構成においても賛成しかねるところが多い⁷⁾。従って残念ながら、具体的な言語形式は入手しやすい形では殆ど紹介されていないのが現状である。そこで以下はこうした中で前イスラム期のアラビア語、特に古代アラビア語の概要を把握しようと努めたものの一部である。

前イスラム期の言語状況がよく知られていないのは、何よりもアラビア語がイスラムと固く結びつきイスラム以前の姿を想像し難いからであるが、第二には文献が入手困難な（出版年が古い、論文掲載雑誌が一般的でない）こともある。しかし何より研究の進歩を妨げたのは、言語資料（主に碑文）に完全なものが少な（風化や後代の建築への再利用による破壊）かったり短いものが大半であるという事実である。それ故同程度に古いアラム語碑文におけるような文字判読の確実さ⁸⁾をもって言語形式を確定することは困難であり、また仮に可能としてもその数は少ない。又第四には、文字が周知のアラビア文字（アラム文字の一種であるナバタイ文字より発達）でなく、古代南アラビア文字と兄弟関係にある⁹⁾ 全く異質の文字であることもアラビストを近寄り難くする遠因の一つであろう¹⁰⁾。

0.2. 古代アラビア語の研究資料 これら碑文言語の実体を窺い知る言語資料とは何如なるものか、次に列挙する。

- (1) アッシリア王の年代記中に音写の形で見出される Aribi 族の固有名詞¹¹⁾
- (2) Ur 出土碑文 2 個と円筒印章類¹²⁾ (前一千年紀前半)
- (3) タイマー語¹³⁾ Taymanite (前 6 世紀)
- (4) ジャウフ語¹⁴⁾ Jawfian (前 6 世紀)
- (5) デダン語 Dedanite (前 6 ～ 5 世紀中葉)
- (6) リフヤーン語 Lihyanite (前 5 世紀後半～前 3 世紀後半)
- (7) サムード語¹⁵⁾ Thamudic (前 6/5～後 3/4 世紀)
- (8) サファー語¹⁶⁾ Safaitic (前 1 ～ 後 4 世紀)

以上のうち(3)と(4)は F. V. Winnet が文字形態の発達段階の差に基いて初めて区別したもので、今後の研究によりサムード語との関連において変更もありうる。又サムード語は長い時間と大きな地域をカバーしているので、今後の調査の結果新しい下位区別が必要となるかも知れない。提案された年代の多くは定説と言い難いので、最も妥当と判断されるものを示しておいた。

さて、年代の古いものから扱うのが順序であるが、個人的興味によりまずデダン語を対象とする。

1. デ ダ ン 語

1.1. 発見と同定 1876年から翌年にかけてアラビア半島を調査した C. Doughty がヒジャーズ北方のオアシス al-‘Ula (古名 Daydān = *Heb.* Dēdān¹⁷⁾) を訪れ、その北東端の「小遺跡」al-Khuraybah と称される場所に碑文を発見して写し取り、1884年に発表した¹⁸⁾ のが最初である。1880年に C. Huber が、1883年より翌年にかけて再度 C. Huber¹⁹⁾ と J. Euting が、同所を訪れ、後者は多数の模写を作製した²⁰⁾。これらの碑文言語は分類もされずダウティとユベールにより「先アラビア語」proto-arabe²¹⁾ と呼ばれていたが、オイティングの模写を研究した D. H. Müller²²⁾ はその中で、部族名リフヤーンが現われる一群の碑文をリフヤーン語 lihyanisch と命名した(1889年)。従って1907, 1909, 1910年の3度にわたり半島北西部を科学的に調査した A. Jaussen と R. Savignac (エルサレムの聖書学研究所教授でドミニコ派神父) もその大著²³⁾ でこの呼称を用いている。しかし1930年 H. Grimme²⁴⁾ は文字形態の発達段階の差及び碑文中のデダン王への言及を根拠として、古い層をデダン語 dedanisch と名付けてリフヤーン語から区別した。以後特にこれに反論する人も無いが、この区別を知らないままリフヤーン語という用語で済ませる人もある(ブロッケルマンも前掲論文でこの用語を用いない)。だが問題は、それまでリフヤーン語(L)とされてきた碑文のどれをデダン語(D)とし、どれをLとして残すかである。この点での意見の不一致はかなり大きく、デダン語研究の進歩を阻む主因となった。1937年ウィンネットにより未確定の3文字の音価が決定された²⁵⁾ 後は、1962年にウィンネットと W. L. Reed がサウジアラビア王家の許可の下に王国北部を踏査した時、若干数の新碑文を発見したのが最新の収穫である²⁶⁾。

1.2. 年代 デダンとその近くの Madā'in Šaliḥ (古名 al-Ḥīgr = *Neb. Hēgrā*) で発見されたデダン語・リフヤーン語・ミナ語・ナバタイ語の碑文を基礎として、文字形・碑文内容・外部世界との関係などからデダンの内的な年代を推論するので、異論も必然的に起りうる。比較的妥当と思われるウィネットの考え²⁷⁾によると、碑文内容からマイーンのデダン駐留通商基地とリフヤーン王国は友好関係にあり²⁸⁾ 同時代に存在したことがわかるから、デダン出土のミナ語碑文中で言及される2人のマイーン国王²⁹⁾ に繋がる何かの年代³⁰⁾ が特定されると、当然その2人の統治時代より以前にマイーンのデダン駐留が開始されたことになる(前5世紀末頃)。Dに対するミナ語の影響の無いことから、D碑文はマイーンの駐留開始以前に作製されたと推量されること、及び文字形態から見てDはタイマー語(前6世紀)³¹⁾ よりも古くはないということに基き、Dの年代は前6世紀より前5世紀中葉と判断される。リフヤーン王国は、前5世紀末より確実に2世紀(碑文中のリフヤーン王の統治年数の合計より推論)間存続した後、恐らく前2/1世紀にナバタイ語碑文で ms'wdw mlk lhyn「リフヤーン王マスウード³²⁾」と称するナバタイ人に滅ばされた。それ以降南下したナバタイ王国の領土に併呑されたデダンは歴史の表舞台から消え、時代は(東)ローマとササン朝の間でアラブ諸小王国が活躍する頃となる。van den Branden はDの年代を考古学と古文書学上の「事実」に基き前8世紀末より前6世紀中葉とする³³⁾ が、可能性はあるとしてもそれは少し大胆すぎよう。

1.3. 研究の現状とデダン語確認の手順 前述した、L碑文の中からDと認定される碑文を区別する仕事はWLT, GDL, CLL, BIDにより積み重ねられてきた。しかしその結果Dと認められた碑文の数は、WLT (p. 10, n. 2) 120個, GDL 106個³⁴⁾, CLL (p. 22-23) 44個, BID 71個³⁵⁾ というように相互に大きな差がある上に、各碑文の判読と解釈においても一致する部分は決して多くない。こうした状況では当然の事ながら、彼らの研究で碑文中より抽出された言語形式³⁶⁾ も非専門家がそのまま安心して引用することはできない³⁷⁾。そこでDの言語形式確認のためには、D碑文の認定でどこまで意見が一致しどの碑文で異論があるのかをはっきりさせた上で、意見の一致する碑文に関して堅実な読みと解釈がどこまで可能かを研究するという手順を踏むことが不可欠である。手続きは面倒であるが、それなしにはアラビア語の歴史と前一千世紀のセム語研究に対して、Dはいつまでも貢献できぬことになる。

2. D/L 分類一覧表兼コンコーダンス

2.1. 表の見方と表の示すもの 論文末尾に付すこの表は、Lとして扱われたことのある全碑文439個³⁸⁾ を左欄に掲げ、GDL, WLT, CLL, BID, WR がそれらをD・Lどちらに判断したかを示す。また参考のため JMIL が「Lとして公刊されたが実はミナ語」であると考えたものも記載した。最右欄には碑文の概要が把握できるように関連ある情報を載せたが、変更の余地を持つ暫定的な性格のものであることを付言しておく。その他の詳細は表の後に付した略号記号説明と註を見ていただきたい。以上のデータをまとめたものが左から2番目のD/L欄で、例えば

JS 203 の碑文に対して D_2L_1 とあれば、その碑文をDと判断した学者が2名でLと考えた学者は1人ということである。また JS 103 の $XD_{3\alpha}$ によると、この碑文は JMIL によりLでなくミナ語であると判断されているが、Dとする学者が3名とD・Lの区別をしかねている学者が1名いると判明する。

尚、本表中のLの数字に関しては注意が必要である。D・Lの区別作業はLの中よりDを選び出すということだから、BID により扱われない碑文は彼によりLとされたことを意味するし、GDL, WLT が積極的にLとしていなくともDと判断してさえいなければ彼らも当該碑文をLと見做していることになる³⁹⁾。それ故Lに付された数字は、Lと判断して積極的に取り上げた人の数を示すのみであって、4人の研究(GDL, WLT, CLL, BID, 一部の碑文はWRも)のうちD扱いした人の数を除いたものが実際のLの数字となる。

2.2. 表に基く D・L の区別 ここで D/L 分類一覧表を基礎として、各碑文を分類する。

I. 3名以上によりDと判断され、ほぼ確実にDであるもの (D) 計57個

- 1) D_5 (総数1) JS 186 (以後 JS は省略)
- 2) D_4 (26) 86, 100, 102, 104, 105, 106, 109, 110, 126, 131, 136, 137, 150, 156, 157, 160, 171, 172, 173, 174, 187, 204, 325, 326, 332, 333
- 3) XD_4 (11) 92, 111, 112, 120, 121, 122, 128, 130, 138, 147, 149
- 4) D_3 (4) 94, 108, 189, 329
- 5) D_3L_1 (1) 376
- 6) $D_{3\alpha}$ (9) 144, 148, 153, 163, 170, 180, 183, 244, 348
- 7) $XD_{3\alpha}$ (4) 103, 124, 125, 154
- 8) XD_3L_1 (1) 127

II. 2名によりDと考えられているが、Lと考えられる人もあるもの (D') 計34個

- 9) D_2 (5) 123, 381, tham506, tham525, Hu327
- 10) D_2L_1 (10) 115, 159, 203, 311, 323, 330, 344, 345, 350, 379
- 11) D_2L_2 (1) 212
- 12) $D_{2\alpha}$ (9) 90, 162, 179, 184, 185, 331, 334, 335, 336
- 13) $D_{2\alpha}L_1$ (1) 182
- 14) XD_2 (3) 158, 178, 337
- 15) XD_2L_1 (3) 119, 142, 257
- 16) $XD_{2\alpha}$ (1) 145
- 17) $XD_{2\alpha}L_1$ (1) 139

III. 1名のみが少なくともDの可能性を指摘するが、他は積極的又は消極的にLとしているもの (DL) 計77 (+2) 個

- 18) D_1 (9+2) 176, 351, 357, WR8, WR16, Cohen pl.XV 34, Cohen pl.XV 35,

Ward 1210, Ward 1212

註 (e'), (h') により EDAr pl. V (Vienna gem) と Ward fig. 768 (cylinder seal) は除く.

- 19) D_1L_2 (1) 81
- 20) D_1L_2 (6) 12, 64, 194, 319, 339, 382
- 21) D_1L_1 (23) 9, 175, 188, 190, 195, 208, 211, 215, 217, 223, 228, 243, 309, 310, 322, 328, 338, 341, 343, 347, 354, 359, tham539
- 22) $D_{1\alpha}$ (4) 141, 161, 193, 356
- 23) $D_{1\alpha}L_1$ (2) 219, 321
- 24) D_α (13) 16, 17, 132, 166, tham194, tham402, tham403, WR1, WR2, WR3, WR4, WR5, WR18
- 25) $D_\alpha L_1$ (6) 200, 312, 313, tham251a, tham251b, tham251c
- 26) XD_1 (2) 27, 270
- 27) $XD_{1\alpha}$ (1) 7
- 28) XD_1L_1 (7) 155, 196, 197, 220, 221, 222, 364
- 29) XD_α (1) 113
- 30) XD_1L_2 (2) 133, 151

IV. Dと判断する人はなく、ほぼ確実にLであるもの (L) 計238 (+2) 個

- 31) L_4 (2) 79, 349
- 32) XL_4 (1) 83
- 33) L_3 (11) 45, 49, 54, 62, 72, 78, 80, 230, 314, 366, 384
- 34) XL_3 (3) 35, 70, 82
- 35) L_2 (48) 8, 10, 40, 42, 44, 53, 57, 63, 66, 71, 74, 76, 85, 177, 206, 225, 226, 233, 238, 256, 259, 264, 265, 274, 276, 279, 282, 283, 284, 290, 296, 302, 306, 307, 316, 317, 318, 320, 342, 358, 360, 365, 368, 370, 371, 373, 375, EDAr8
- 36) XL_2 (18) 36, 37, 41, 52, 55, 59, 62, 65, 67, 68, 73, 75, 77, 140, 248, 269, EDAr17, EDAr29
- 37) L_1 (139+2) 6, 11, 15, 38, 43, 46, 47, 48, 50, 51, 58, 84, 87, 88, 91, 93, 95, 96, 98, 101, 107, 114, 116, 118, 129, 135, 143, 152, 165, 167, 168, 169, 181, 192, 198, 199, 201, 202, 207, 209, 210, 213, 214, 216, 218, 224, 227, 229, 229bis, 231, 232, 234, 235, 236, 237, 239, 240, 241, 242, 245, 246, 247, 250, 251, 252, 253, 254, 255, 258, 261, 263, 266, 267, 268, 271, 271,

272, 273, 275, 277, 278, 280, 281, 285, 286, 287, 288, 289,
291, 292, 293, 294, 295, 297, 298, 299, 300, 301, 303, 304,
305, 308, 315, 324, 327, 340, 346, 352, 353, 355, 361, 362,
363, 367, 369, 372, 374, 377, 378, 380, 383, min82.3, tham427,
WR10, WR12, WR15, WR17, EDAr11, EDAr15, EDAr16,
EDAr20, EDAr28, EDAr57, EDAr64, EDAr69, EDAr70,
EDAr73, EDAr75, Hu442.1, Hu442.2

尚, CLL の挙げる Eut822, Eut828 は指示するものが不明

38) XL₁ (16) 14, 39, 56, 60, 69, 89, 97, 99, 117, 134, 146, 164, 249, 260,
262, EDAr10

V. 積極的にはLとされなかったり, ミナ語と考えられたりしたもの (L') 計25 (+4) 個

39) X (8) 74bis, 191, 205, EDAr60, EDAr63, Ist0994, Ist7809, Ist7810

40) 空欄⁴⁰⁾ (17+4) 13, EDAr3, EDAr19, EDAr37, EDAr42, EDAr46, EDAr49,
EDAr53, EDAr56, EDAr59, EDAr65, EDAr66, EDArg8,
EDAr72, EDAr74, Hu256.21, R4685

JS 32, 33, 34, 329 bis は模写がないので対象としない。

以上の結果をまとめて図表化すると次の通り。

分 類	I 1)-8)	II 9)-17)	III 18)-30)	IV 31)-38)	V 39)-40)	そ の 他*	計
評 価	D	D'	DL	L	L'		
碑 文 数	57	34	77	238	25	8	439

* 既述の理由で除外された III の 2 個, IV の 2 個, V の 4 個

つまり合計 439 個の碑文の内訳は, ほぼ安心してD扱いができるもの57個, Dの可能性があって参考になれるもの34個, 截然とした区別が不可能なもの77個, ほぼ確実にLであるもの238個, Lとするには不確実性の残るもの25個, 研究対象より除外されるべきもの8個, ということになる。

2.3. デダン語確認への手順 こうした機械的な数値化は, ある意味で危険でもあり慎重な取扱いが必要であるが, 同時に巨視的に見ればD確認作業の前提となるものである。以後はまずD碑文のうち人名のみのものを除外した碑文を調査検討し, その後 D' 碑文につき同様に行う。その上で参考のため, DL の主たる碑文の研究へと進む。D・D'・DL の区別を意識しつつなされるこうした研究の中で確認された形式によって初めて, たとえ新事実の発見は無くとも, 既知の知識は客観性と確実性を得て, 信頼するに足るDの言語の概要を把握することが可能となるのである。

[註]

- 1) 最古のアラム語碑文は上メソポタミアの Tell Halaf 出土の短い断片 (*KAI²*, Nr. 231 = Gibson, *Textbook*, vol. 2, No. 10 = Degen, *Altaram. Gram.*, p. 23) で、前10世紀後半より前9世紀前半にかけてのものである。前10世紀に遡るのはこれだけで、古代アラム語の大半が前9世紀以降のものであることを考慮すれば、古さという点ではさほど大差はない。ただアラム語は、周知のように早くから他民族にも用いられたために、紀元前の資料が非常に豊かである。しかし現在も使用されている言語の中で、記録の確認できる時間的幅がかくも長いものを、この二大セム語を除いて筆者は他に知らない。
- 2) 例えば、P. Hitti, *History of the Arabs*, 8th ed., London, 1963, pp. 71-2 でもかなり正確に古代アラビア語碑文を紹介しながら、誇るべきこの事実には言及していない。B. Lewis, *The Arabs in History*, 4th ed., London, 1966, p. 28 も同じだし、アラブ人の著者による Anwar G. Chejne, *The Arabic Language. Its role in history*, Minneapolis, 1969, p. 36 ではこうした碑文言語の否定的側面しか見ていないようである。
- 3) C. Brockelmann, *Grundriss*, Bd. I, Berlin, 1908, p. 22 がきわめて不十分な紹介に留まるのは年代を考えて当然としても、H. Fleisch, *Introduction à l'étude de lang. sémit.*, Paris, 1947, pp. 95-96 では簡潔な概観を与えているが具体論に入らず、S. Moscati (ed.), *An Introduction to the compar. gram. of the Semit. lang.*, Wiesbaden, 1964, p. 14 では言語名の列挙にすぎない。cf. J. Barth, *Die Pronominalbildung*, Leipzig, 1913, §55b, c
- 4) C. Brockelmann, "9. Das Arabische und seine Mundarten", HO, I. Abt., III. Bd.: *Semitistik*, Leiden, 1954/1964, pp. 207-245 特に pp. 208-214. G. Levi Della Vida (ed.), *Linguistica Semitica: Presente e Futuro* (SS N. 4, Univ. di Roma, Roma, 1961, pp. 115-138) にも A. Spitaler によるアラビア語研究概観の中に比較的新しい紹介がある (pp. 116-118).
- 5) C. Rabin, *EI²*, vol. I, 1954-60 の中の 'Arabiyya (pp. 561b-567a), 特に (i) Pre-classical Arabic (pp. 561b-4b)
- 6) Pre-classical North Arabic (S. Moscati, *op. cit.*, p. 14) の訳。古代南アラビア語と区別するため C. Rabin (*op. cit.*, p. 561b) の Pre-classical Arabic でなく「北」の入ったこちらを使う。その他 *Inscriptionen-arabisch*, *Frühnordarabisch*, *Altnordarabisch* とも。前古典北アラビア語は C. Rabin (*op. cit.*) に従い前9世紀より後3/4世紀を古代アラビア語 Old Arabic とし、後3世紀より古典アラビア語が形成されていく6世紀までを初期アラビア語 Early Arabic とする。後者はアラブ文法学者達の調査による記述以外は資料も少ない。また S. A. Hopkins, *Studies in the grammar of early Arabic*, Oxford, 1981 が古典アラビア語の初期(ヒジュラ暦300年以前)のものに対して用いる early Arabic とは区別されるべきである。
- 7) Hans P. Roschinski, "Sprachen, Schriften und Inschriften in Nordwestarabien", Rheinisches Landmuseum Bonn, *Die Nabatäer* (Kunst und Altertum am Rhein, Nr. 106), Köln/Bonn, 1981, pp. 27-60. *CLL* に依拠するところが大きく、よって後述のようにそのまま信頼はできない。
- 8) 例えば前8世紀中葉の Sefire inscriptions をみよ (*KAI²*, Nr. 222-4, 伴康哉「セフィレ碑石のアラム語」, 『西南アジア研究』No. 18, 1967, pp. 1-18 など)。
- 9) 古代アラビア語の文字が古代南アラビア文字と「密接な関係を持つ」(内記良一「アラビア系文字の発展」, 西田龍雄編『世界の文字』[講座言語第5巻], 1981年, 175頁) ことは周知のことであるが、一般に「南アラビアのアルファベットの様々な変種」(Brockelmann, *op. cit.*, p. 208) であるとか、「南アラビアのサバ・ミナ語碑文のそれより派生した」(H. Fleisch, *op. cit.*, p. 96) と考えられている。しかしウィンネット (*WLT*, pp. 53-4) の言うように、アルファベットはアラビアの南北2ヶ所で行ったとするのが正しかろう。G. R. Driver は、(Proto-)Sinaitic (前1850~1600) に由来する文字が early Canaanite form と相互に影響しあいながら前1500~1250頃先アラビア文字 Proto-Arabian を生み(ヨルダンの Deir 'Alla 出土碑文, 1200頃)、モアブの Balū'ah 碑文(前12世紀)を経て700~500頃南アラビア文字が登場したと

考えている (G. R. Driver, *Semitic Writing*, newly rev.[=3rd] ed., Oxford, 1976, pp. 123, 127, 144-8, 244-5). 又, J. Naveh は F. M. Cross の考えに基き, 先シナイ文字を含む先カナアン文字 Proto-Canaanite より前13世紀頃派生した先アラビア文字 Proto-Arabic は, 南アラビア文字 (前10世紀)・エチオピア文字・古代アラビア諸語の文字と親縁関係があるとしている (J. Naveh, *EJ*, vol. 2, 1972, col. 674-689, esp. 677; do., *Die Entstehung des Alphabets*, Köln, [1975] 1979, p. 19). つまり二人の考えの小異を別とすれば, アルファベットはガザ (アラビア半島の隊商ルート北端) を含むパレスチナ中南部より隊商ルートに沿ってモアブ・エドム・ミディアンと南下しヤマンに至ったということができる。即ち同系のアルファベットがミディアン (ヒジャーズ北部) で古代アラビア語に, ヤマンで古代南アラビア語に文字を提供したわけだから, これら2個の文字は互いに対等な兄弟関係にあることになる。この後の相互の影響は十分想定されうる。南アラビア文字の最古の年代は, 学者間に意見の一致がないことと J. Pirenne の立場を別としても, 「前9世紀以前の年代を受け入れる学者はない」 (A. F. L. Beeston, *A descriptive grammar*, London, 1962, p. 2) ことを考えれば, 後述する古代アラビア語資料の年代とさほど矛盾しない。本文0.2.節, 註(12)参照。

- 10) その他にも碑文解釈に重要な役割を果たす, 古代オリエント世界の錯綜した歴史が, 障碍となることも多い。筆者は試みに「イスラム以前のアラブ関係歴史年表」(『大阪外国語大学学報』第58号, 1982年 pp. 115-153) をまとめてみた。
- 11) Shalmaneser III (858-824 BC) より Ashurbanipal (668-633 BC) にかけての年代記中にみられる。T. W. Rosmarin ("Aribi und Arabien in den babylonisch-assyrischen Quellen", *JSOR*, vol. 16, 1932, pp. 1-37) が広く拾集してまとめ, 研究してはいるが, C. Rabin (*op. cit.*, p. 562a) の「殆どすべてアラビア語と同定されうる」という言葉に反して, 明らかな幾つかを除きアラビア語にどう対応するかは未だ研究し尽されていない (F. Hommel, *Ethnologie u. Geographie d. alten Orients*, Handb. d. Altertumswissenschaft, 3. Abt., 1. Teil, 1. Bd., München, 1926, pp. 578-89 では幾つかにつき解釈を試みている)。Qarqar の戦い (前854年) で, アッシリアに対抗するハマとダマスコの同盟軍に駱駝 1000 頭を率いてはるばる参加した Gindibu (Pritchard, *ANET*³, p. 279a) の名が最古のアラビア語である (*Cl. Ar.* ḡunda/ub^{un}, ḡindab^{un} 「いなごの一種」, この語を持つ人名が Kitab al-Aghānī の中に5個見出される, 例えば Ḡundab bn 'Abd al-Lāh bn al-Ḥaḡḡaḡ). cf. H. Fleisch, *op. cit.*, p. 90, 矢島文夫著「アラブ民族とイスラム文化」, 『人間の世界歴史9』, 1981年, pp. 14-15等。
- 12) Ur 出土碑文と数個の円筒印章について前8~7世紀が提案されている (W. F. Albright, *BASOR*, No. 128, 1952, pp. 39-45; *BID*, pp. 29-41; G. R. Driver, *op. cit.*, pp. 124, 249-250; G. Garbini, *AION*, 36 (NS 26), 1976, pp. 165-174, etc.). 円筒印章章類はデダン語かサムード語かの判定に異論が多いので, 別個に一群のものとして扱うのが適切である。年代にも異論はあるが, 前500年を下ることはない。
- 13) Taymā 近辺の Jabal Ghunaym で H. St. J. B. Philby が発見 (1951年) し, F. V. Winnet が写真を撮りなおし (1962年) で研究した碑文・刻文47個と JS の発見した約125個の刻文など (*ARNA*, pp. 69, 89-90, 93-108). WLT の Thamudic A に対応する。
- 14) al-Ḡawf (=Dūmat al-Ḡandal=*Heb.* Dūmāh [Gen 25: 15]=*Akk.* Adummatu) 近くの Sakakah で発見された碑文3個。ARNA では文字の形から少数でも独立した名称を考えたようであるが, サムード語の下位区分の一つとも考えているらしい (*op. cit.* pp. 69, 73 末尾の図版1の文字表を参照)。
- 15) 言うまでもなくコーランの中に何度か言及される古代アラブの部族名に由来する。大半の碑文は半島北部のものだが, van den Branden は半島南部のサムード語碑文はサバの近辺に出没して悩ませた 'rb 達によって書かれたものであり, 'rb はサムード族だったようだと考えている (*Histoire de Thamoud*, 2ème ed., Beyrouth, 1966, pp. 26-7). 部勇造「古代南アラビア碑文中の 'rb ('rb)」, 『オリエント』第22巻第2号, 1979年, 17~38頁参照。
- 16) シリア南部よりヨルダン東部にかけて連なる溶岩台地 (Safa 地方) に見出される非常に多数 (今では1万を超えるかも知れない) の主として短い刻文・碑文。下限年代を後614年とする説もあるが, 根拠は薄い。

- 17) 旧約聖書の言及箇所 (Is 21:13, Jer 25:23, Ezek 25:13 などの他に 7 箇所) は、デダンがヘブライ人にとり強力な敵となるほど繁栄していた事を示している。
- 18) C. Doughty, *Documents épigraphiques recueillis dans le Nord de l'Arabie*, Paris, 1884 の中の 30 個の碑文。
- 19) C. Huber, *Journal d'un voyage en Arabie, 1883-84*, Paris, 1891 の中で 16 個の碑文。
- 20) 二人は途中で別れたが、その後両名共ベドウィンに襲われた。オイティングはうまく逃れたが、ユベールは殺された。cf. R. H. Kiernan, *The unveiling of Arabia*, London, 1937, pp. 265-6. オイティングは 74 個の碑文を集め EDAr で研究された。
- 21) しかしその実体は比較言語学で言う「アラビア祖語」ではないので、この用語はこれらの碑文の呼称としては不適切であり用いられるべきではない。
- 22) D. H. Müller, *EDAr*
- 23) 碑文関係では、1・2 巻にナバタイ語 (395 個)、ミナ語 (218 個)、リフヤーン語 (380 個)、サムード語 (774 個)、古典アラビア語 (6 個)、ヘブライ語 (8 個)、ギリシア語 (21 個)、ラテン語 (2 個) が納められ、3 巻には古典アラビア語碑文と若干のギリシア語碑文 (計 18 個) が記録されて、それぞれ詳しく研究されている。碑文番号には重複があるので採録された実数とは一致していない。
- 24) H. Grimme, "Die südsemitische Schrift, ihr Wesen und ihre Entwicklung", *Buch und Schrift*, IV, 1930, pp. 19-28; do., "Zur dedanisch-lihyanischen Schrift", *OLZ*, 35, 1932, col. 753-8
- 25) t, d, g/ğ の 3 個, *WLT*, pp. 11-16
- 26) *ARNA*, pp. 122-9. cf. *An introduction to Saudi Arabian antiquities* (Department of Antiquities and Museums, Ministry of Education), Kingdom of Saudi Arabia, 1395 A.H.-1975 A.D., p. 15. 本書はアラビア半島の古代文明と歴史を豊富な写真で解説する絶好の書である。尚リヤドからの本書入手に御協力下さった K. O. 氏に感謝する。
- 27) *op. cit.*, pp. 113-120 による。WPM の立場を修正している。
- 28) JS 49 ではデダンに駐留するマイーンの Wadd 神の神官が、リフヤーンの Dū-Gabat 神に犠牲を捧げている。
- 29) Waqah'il Šadiq (RES 3346=JS min17) とその子 Abkarib Yata' (RES 3697=JS min12)
- 30) RES 3022 の Abyada' Yata' 王の時代のエジプトと Mdy との間の戦いを Artaxerxes III Ochus のエジプト侵入 (前 343 年) と同定している (*WPM*, p. 8=*ARNA*, p. 119). 従って Abyada' Yata' 王より以前に位置する前註の 2 人の王の年代とマイーンのデダン駐留開始が間接的に推測可能となる。
- 31) タイマー語碑文には、Nabonidus のタイマー滞在 (ほぼ前 552~542) に言及する Harran 碑文の内容と合致する内容があり、それに基き 6 世紀という年代が推定される (*ARNA*, pp. 90-2).
- 32) JS nab334, 335, 337 の 3 碑文。ナバタイ王のリスト中に紀元前後の Mas'ūdu の名はなく、未知のナバタイ王でもないことは明らかであるから、彼は地方の有力者の一人にすぎない (cf. M. Lindner, *Petra u. d. Königr. d. Nabatäer*, 3. Aufl., München, 1980, p. 107). 従って *CLL*, pp. 35-44 の提示する年代 (マイーンの植民地 [前 160 まで]——デダン王国独立——リフヤーン王国第 1 期 [前 115 より]——ナバタイ王国の支配下 [前 9~後 80]——リフヤーン王国独立第 2 期 [後 150 頃まで]) は、受け入れ難い。D の年代を前 2 世紀とするのも遅すぎる。
- 33) *BID*, p. 36
- 34) p. 274 には碑文 25 個・刻文 80 個を挙げているが、リスト中に無い 4 個 (JS 7, 9, 218 [278 は誤り], tham 539) を本文で D として扱い、リスト中の 3 個 (JS 200, 312, 313) は本文で L として扱っている。従って実数は 106 個、いずれにしても不注意な分類である。
- 35) 碑文番号は 70 までであるが、4 番に重複 (4a) があるので計 71 個。
- 36) *CLL*, pp. 60-75; *BID*, pp. 48-9
- 37) *CLL* は特に D/L の区別をしていないし、更に年代推定におけるように、文字判読と碑文解釈において

も堅実さに欠け推論に頼りすぎる欠点がある。これは E. Ullendorff の *CLL* に対する書評 (*Orientalia*, NS 24, 1955, pp. 428-433=do., *Is Biblical Hebrew a language?*, Wiesbaden, 1977, pp. 209-14) でも厳しく指摘されている。

- 38) JS 18-26, 28-31 の13個も JS により L として扱われているので、これを加えると452個になる。註(d)参照。尚、各碑文の詳細な文献上の情報は *HInC* のコンコーダンスを参照のこと。
- 39) 更に *HInC* も D/L の区別をしていないので、すべて L と見做していることになる。
- 40) 空欄であるとしても、既述の通り少なくとも *HInC* によって (JS 碑文は JS によっても) L と考えられている。

(付表) D/L 分類一覧表兼コンコーダンス

Inscription Number	D/L	Dedanite					Lihyanite				JMIL	Note ^(a)
		GDL	WLT	CLL	BID	WR	GDL	WLT	CLL	WR		
JS 6 ^(b)	L ₁								S 112/n 96			文 7行 21語 (?)
7	XD _{1α}	280		DL 39							3	文 4行 7語
8	L ₂							EL 13	F 60			文 2行 5語
9	D ₁ L ₁	281							F 59			文 1行 2語
10	L ₂							EL	F			人名
11	L ₁								F/n 56			人名(?)
12	D ₁ L ₂	283(?) ^(c)						EL	F 58			文 1行 4語
13												人名
14	XL ₁								S		99	人名 2行 bn
15	L ₁								S			人名(?)
16	D _α			DL								?
17 ^(d)	D _α			DL 40								文 1行 3語
27	XD ₁			D							5	句(?) 1語
32 ^(e)									NA			人名 2行 bn
33 ^(e)									NA			文 1行 2語
34 ^(e)									NA			人名(?)
35	XL ₃						320	EL	F 11		72 etc	文 2行 7語
36	XL ₂						303		F 25		33 etc	文 2行 5語
37	XL ₂							EL	F 18		131 etc	文 5行 3語
38	L ₁								F 34			文 3行 ?語
39	XL ₁								F 28		98	人名 2行 冠詞・名詞
40	L ₂							EL 16	F 31			文 10行 ?語
41	XL ₂						304		S 71		64	文 5行 13語
42	L ₂							EL	F 23			文 3行 8語
43	L ₁								S/n 71			人名 3行 bn
44	L ₂							EL	F 27			文(?) 4行 3語
45	L ₃						312	15	S 74			文 4行 19語
46	L ₁								F 24			文(?) 3行 3語

JS 47	L ₁						S 81		文 4行 ?語
48	L ₁						F 21		文(?) 5行 ?語
49	L ₃					299	EL ^(d)		文 10行 12語
50	L ₁						S 70		文 6行 ?語
51	L ₁						S 88		文(?) 9行 ?語
52	XL ₂						S 87	12	134 文 8行 ?語
53	L ₂					297	F 22		文 4行 10語
54	L ₃					304	S 75	18	文 5行 14語
55	XL ₂					299	S 84		140 文 4行 12語
56	XL ₁						FS 64	4	文 3行 6語
57	L ₂					302	F 15		文 6行 3語
58	L ₁						F 13		人名 3行 1-冠詞
59	XL ₂					310	S 90	74	文 7行 15語
60	XL ₁						S/n 71	8	人名 1行 bn
61	XL ₂					300	FS 62	3/111	文 7行 9語
62	L ₃					301	F 19		文 7行 8語
63	L ₂					300	S 85		文 4行 15語
64	D ₁ L ₂	279					F 12	EL 17	文 3行 9語
65	XL ₂					316	S 97	134	文 2行 5語
66	L ₂					317	S 96		文 2行 4語
67	XL ₂					309	S 79	88/94	文 3行 8語
68	XL ₂					309	S 80	37	文 5行 13語
69	XL ₁						S 89	21/106	文 4行 6語
70	XL ₃					308	S 86	79/88	文 6行 21語
71	L ₂					298	S 91		文 10行 21語
72	L ₃					313	S 77	17	文 9行 32語
73	XL ₂					318	S 73		82 文 6行 17語
74	L ₂					320	S 83		文 1行 4語
74 bis	X							99	人名 1行 bn
75	XL ₂					314	S 72	133~4	文 7行 19語
76	L ₂					306	S 78		文 2行 4語
77	XL ₂					315	S 82	72	文 12行 44語
78	L ₃					316	F 16	17	文 4行 7語

Inscription Number	D/L	Dedanite					Lihyanite				JMIL	Note
		GDL	WLT	CLL	BID	WR	GDL	WLT	CLL	WR		
JS 79	L ₄						312	12	S 76	EL 6		文 5行 17語
80	L ₁								F 35			人名(?) 4行 ?
81	D ₁ L ₃	○						EL 18	F 17	7 ⁽⁸⁾		文 6行 11語
82	XL ₃						301	EL	F 32		134	文 8行 26語
83	XL ₄						302	EL	F 30	EL 9	4 etc	文 8行 11語
84	L ₁								F 20			文 2行 3語
85	L ₂							EL	F 29			文 4行 13語
86	D ₄	○	○	D	1							人名
87	L ₁								S			人名
88	L ₁								FS			人名
89	XL ₁								S		72	人名 bn
90	D _{2α}		○	DL	59							人名
91	L ₁		○						S/n 73			人名
92	XD ₄	○	○	D	2						3 etc	人名
93	L ₁								S			人名
94	D ₃		○	D	3							人名
95	L ₁								S/n 74			文(?) 1行 4語
96	L ₁								F			人名
97	XL ₁								F/n 42		3/6	人名
98	L ₁								F			人名
99	XL ₁								S		3	人名
100	D ₄	○	○	D	4							人名
101	L ₁								S/n 75			人名
102	D ₄	○	○	D	4a							人名
103	XD _{3α}	282	○	DL	60						3/4	文 2行 2語
104	D ₄	○	○	D/n 22	5							人名
105	D ₄	○	○	D	6							人名 2行
106	D ₄	○	○	D 7	7							人名 2行 bn
107	L ₁								S			人名
108	D ₃		○	D	8							人名

109	D ₄	○	○	D	9					人名
110	D ₄	○	○	D/n 22	10					人名
111	XD ₄	○	○	D	11					人名
112	XD ₄	○	○	D	12				2	人名
113	XD _α			DL					30/50	人名
114	L ₁								3/116	人名 bn
115	D ₂ L ₁		○		13		S			人名
116	L ₁						S			人名
117	XL ₁						S		6	人名
118	L ₁						S			人名 2行
119	XD ₂ L ₁	282	○				F		6	文 1行 2語
120	XD ₄	○	○	D	14				6	人名
121	XD ₄	○	12	D	15				2 etc	人名 2行 bn
122	XD ₄	○	○	D 8	16				50 etc	人名
123	D ₂	○	○							人名
124	XD _{3α}	281	○	DL 36 ^(h)	61				3 etc	句 khf
125	XD _{3α}	○	12	DL	57		NA		3/6	人名 bn
126	D ₄	○	○	D/n 23	17					人名
127	XD ₃ L ₁	283	○		18		MG 43/n 99		5 etc	文 2行 5語
128	XD ₄	283	12	D 5	19				54	文 1行 4語
129	L ₁						S/n 76			人名 l-
130	XD ₄	281	○	D 2	20				6	句 1行 2語 khf
131	D ₄	○	○	D	21					人名
132	D _α			DL						人名
133	XD ₁ L ₂	281				EL	F 53		3	文(?) 1行 3語
134	XL ₁						S		44	人名 bn
135	L ₁						S/n 77			人名 l-
136	D ₄	○	○	D	22					人名
137	D ₄	○	○	D	23					人名 bn
138	XD ₄	281	○	D 1	24				2 etc	文 2行 10語
139	XD _{2α} L ₁	○(?)		DL 37	62	EL			3/6	文 1行 4語
140	XL ₂					EL	F		3	人名
141	D _{1α}	○		DL						人名

Inscription Number	D/L	Dedanite					Lihyanite				JMIL	Note
		GDL	WLT	CLL	BID	WR	GDL	WLT	CLL	WR		
JS 142	XD ₂ L ₁	○	○						S		81	人名
143	L ₁								S/n 78			人名 l-
144	D _{3α}	○	○	DL	63							人名 bn
145	XD _{2α}	○		DL	64						2 etc	人名
146	XL ₁								S		72/84	人名 bn
147	XD ₄	282	○	D 6	25						2/6	文 2行 2語
148	D _{3α}	○	○	DL	26							人名
149	XD ₄	282	○	D	27						77-8	文 2行 3語
150	D ₄	○	○	D/n 25	28							文 2行 2語
151	XD ₁ L ₂	○						LM/LL	MG 44		3/5	文(?) 3行 5語
152	L ₁								S			人名 bn
153	D _{3α}	280	○	DL	29							人名
154	XD _{3α}	○	○	DL/n 32	30						4	人名
155	XD ₁ L ₁		○						MG		5	人名 l-
156	D ₄	○	○	D	31							人名 冠詞
157	D ₄	284	○	D	32							人名 l-
158	XD ₂	285	○						MIN			文 3行 5語
159	D ₂ L ₁	○	○						S/n 79			人名 l-, bn
160	D ₄	○	○	D	33							人名 bn
161	D _{1α}	284		DL								人名 l-
162	D _{2α}	○		DL	65							人名 l-, bn
163	D _{3α}	○	○	DL	55							人名 bn
164	XL ₁							LM/LL	MIN			人名
165	L ₁								S			人名 2行 bn
166	D _α			DL 42								文(?) 1行 4語
167	L ₁								S			人名(?) 2行 4語
168	L ₁								S			人名
169	L ₁								S			人名 bn
170	D _{3α}	○	○	DL/n 33	34							人名
171	D ₄	○	○	D	35							人名

172	D ₄	○	○	D	36						人名
173	D ₄	○	○	D	37						人名
174	D ₄	○	○	D	38						人名
175	D ₁ L ₁		○					S			人名
176	D ₁		○								人名(?)
177	L ₂					319		FS 69			文 2行 12語
178	XD ₂	○	○					MIN			人名
179	D _{2α}	○	○	DL/n 34							人名
180	D _{3α}	○	○	DL/n 35	39						人名 bn
181	L _i							S 100			文 3行 5語
182	D _{2α} L ₁	282	○	DL			12				文 4行 4語
183	D _{3α}	○	○	DL	56						人名 bn
184	D _{2α}	○	○	DL							人名
185	D _{2α}	282	○	DL							文 1行 2語
186	D ₅	284	○	D 3	40	13 ⁽ⁱ⁾					文 3行 7語
187	D ₄	284	○	D 4	41						文 2行 4語
188	D ₁ L ₁	281						S 93			句 2行 khf
189	D ₃		○	D	42						人名
190	D ₁ L ₁		○					F/n 43			人名
191	X							MIN			人名
192	L ₁							S			人名
193	D _{1α}		○	DL							人名
194	D ₁ L ₂	283	(○)				LM/EL ⁽ⁱ⁾	MG			文(?) 1行 5語
195	D ₁ L ₁		○								人名 冠詞
196	XD ₁ L ₁	○					LM	MIN			人名
197	XD ₁ L ₁	○(?)					LM/LL	MIN			人名
198	L ₁							S			人名
199	L ₁							S			人名
200	D _α L ₁	○ ^(k)				305 ^(k)		S 107			文 1行 2語
201	L ₁							S			人名
202	L ₁							S			人名
203	D ₂ L ₁	○	○					F			人名 bn
204	D ₄	○	○	D	43						人名

Inscription Number	D/L	Dedanite					Lihyante				JMIL	Note
		GDL	WLT	CLL	BID	WR	GDL	WLT	CLL	WR		
JS 205	X							MIN	MIN			人名
206	L ₂							LM/LL	MG/n 100			人名
207	L ₁								S			人名
208	D ₁ L ₁		○						S			人名
209	L ₁								S			人名
210	L ₁								S			人名
211	D ₁ L ₁	○							S			人名
212	D ₂ L ₂	○(?)	(○)		58			LM/LL ⁽¹⁾	MG			人名 2行 nisbah
213	L ₁								S/n 80			人名
214	L ₁								FS			人名
215	D ₁ L ₁		○						MG			人名
216	L ₁								F			人名 bn
217	D ₁ L ₁				44				F			人名
218	L ₁	(283) ⁽¹⁾							S			人名(?)
219	D _{1α} L ₁		○	DL			311					人名/文 1行 2~3語
220	XD ₁ L ₁	○	(○)					LM/LL ⁽¹⁾	MIN			人名
221 ^(m)	XD ₁ L ₁	○(?)						LM/LL(EL)	MIN			人名 2行
222	XD ₁ L ₁	○(?)	(○)					LM/LL ⁽¹⁾	MIN			人名
223	D ₁ L ₁		○						F			人名
224	L ₁								F/n 44			人名 4行 bn
225	L ₂						311		S			文 1行 2語
226	L ₂							LM/EL ^(a)	MG/n 101			人名 dū
227	L ₁								S			人名
228	D ₁ L ₁		○						F/n 45			人名
229	L ₁								F			人名
229 bis ^(a)	L ₁								F/n 46			人名
230	L ₃						317	11	S 95			文 2行 3語
231	L ₁								S/n 81			人名
232	L ₁								S			人名
233	L ₂						317		S 94			文 1行 3語

234	L ₁						F	人名
235	L ₁						F	人名
236	L ₁						S	人名
237	L ₁						S	人名
238	L ₂					EL	F/n 47	人名 3行 bn
239	L ₁						F	人名
240	L ₁						S	人名
241	L ₁						S	人名
242	L ₁						S	人名
243	D ₁ L ₁		○				FS/n 64	人名
244	D _{3α}	○	○	DL	45			人名
245	L ₁						FS/n 65	人名
246	L ₁						S 99	人名/文 1行 2語
247	L ₁						S 105	人名/文 2行 3語
248 ^(p)	XL ₂					322 LM/LL	MIN/F	人名/句 2行 3語
249	XL ₁					LM/EL	MIN/F ^(a)	人名
250	L ₁						F ^(c)	人名 bn
251	L ₁						F/n 48	人名
252	L ₁						F/n 49	人名
253	L ₁						F	人名
254	L ₁						F	句 bnt
255	L ₁						F 48	人名/文 1行 2語
256	L ₂					EL	F	人名 2行 冠詞・bn
257	XD ₂ L ₁	284	○				F 47	39* 文 1行 4語
258	L ₁						S/n 82	人名 bn
259	L ₂					321	F 50	句/文 4行 5語
260	XL ₁						FS/n 66	116-7* 人名 bn
261	L ₁						S	人名
262	XL ₁						FS/n 62	116-7* 人名
263	L ₁						F/n 50	人名
264	L ₂					EL 16	F	人名
265	L ₂					EL	F	人名 dū
266	L ₁						FS/n 68	人名 dū

Inscription Number	D/L	Dedanite					Lihyanite				JMIL	Note
		GDL	WLT	CLL	BID	WR	GDL	WLT	CLL	WR		
JS 267	L ₁	(283) ⁽¹⁾	○				307	LM	F	MIN/F/S/n83 ⁽⁵⁾		人名
268	L ₁								S			人名
269	XL ₂											文 5行 6語
270	XD ₁								MIN			人名
271	L ₁								F			人名
272	L ₁								S 106			文 4行 7語
273	L ₁								S			人名 冠詞
274	L ₂							EL	F			人名
275	L ₁								F			人名 bn
276	L ₂						306		S 101			文 1行 9語
277	L ₁								S 104			句 dū
278	L ₁								F 52			人名 bn
279	L ₂						306/321		F 49			文 1行 3語
280	L ₁								S			人名 bn
281	L ₁								FS			人名
282	L ₂						EL	F 51	句 1行 5語			
283	L ₂							F/n 51	人名			
284	L ₂							321	S			人名/句 dū 冠詞
285	L ₁								S/n 84			文 1行 3語
286	L ₁								S/n 85			人名 冠詞
287	L ₁								S			人名
288	L ₁								FS			人名
289	L ₁								F/n 52			文 1行 2語
290	L ₂							322	F/n 53			句 1行 5語
291	L ₁								F/S ^(u)			人名 bn
292	L ₁								F			人名
293	L ₁								S			人名 bn
294	L ₁								S/n 86			人名
295	L ₁							320	S			人名
296	L ₂								FS			人名/文 1行 2語

297	L ₁						S 103		人名/文 1行 1/2語
298	L ₁						S		人名
299	L ₁						S		人名
300	L ₁						S 102		文 1行 2語
301	L ₁						S		人名 bn
302	L ₂					321	S 98		句 2行 5語
303	L ₁						F		人名 bn
304	L ₁						FS		人名
305	L ₁						S		人名
306	L ₂					316	FS 68/n 69		文 2行 5語
307	L ₂					322	S		句 1行 2語
308	L ₁						F		人名 l-
309	D ₁ L ₁			○			F		人名
310	D ₁ L ₁			○			F		人名 l-, bn
311	D ₂ L ₁	○(?)		○			F		人名
312	D _α L ₁	○ ^(w)				317 ^(w)	F 45		文 3行 6語
313	D _α L ₁	○ ^(w)				318 ^(w)	FS 67		文 3行 7語
314	L ₃						F	EL 11	人名 bn
315	L ₁						S		人名
316	L ₂						F		人名 bn
317	L ₂						F 46		人名 bn
318	L ₂						S	LL 14	人名 bn
319	D ₁ L ₂	○(?)				EL 16	F		人名
320	L ₂					EL	S/n 87		人名 'm(?)
321	D _{1α} L ₁	○(?)			DL		FS		人名 bn
322	D ₁ L ₁			○			F		人名
323	D ₂ L ₁			○			S/n 71		人名
324 ^(w)	L ₁			(○)					文(?) 3行 3語
325	D ₄	○		○	D				人名
326	D ₄	○		○	D				人名
327	L ₁						S		人名
328	D ₁ L ₁			○			F		人名
329	D ₃	○		○					人名

46

47

48

66

LM^①

Inscription Number	D/L	Dedanite					Lihyante				JMIL	Note
		GDL	WLT	CLL	BID	WR	GDL	WLT	CLL	WR		
JS 329 bis									NA			人名
330	D ₂ L ₁	○	○						F			人名
331	D _{2α}	○	○	DL								人名
332	D ₄	○	○	D	49							文 2行 5語
333	D ₄	○	○	D	50							人名
334	D _{2α}	282	○	DL								人名
335	D _{2α}	○	○	DL								人名 1行 mlk
336	D _{2α}	○(?)	○	DL/n 36								人名 bn
337	XD ₂	○(?)	○						MIN			人名
338	D ₁ L ₁		○						F			人名 bn
339	D ₁ L ₂		○				311		F			人名/文 3行 6語
340	L ₁								S			人名
341	D ₁ L ₁		○						S			人名 bn
342	L ₂							EL	S			人名 bn
343	D ₁ L ₁	○(?)							S/n 88			人名 bn
344	D ₂ L ₁	○	○						F			人名 冠詞
345	D ₂ L ₁	○	○						F 56			人名/文 3行 5語
346	L ₁								S			人名
347	D ₁ L ₁		○						F 57/n 55			文 2行 6語
348	D _{3α}	○	○	DL	51							人名
349	L ₃						310	EL 50	F 55			文 1行 12語
350	D ₂ L ₁	○(?)	○						F			人名 bn
351	D ₁		○						NA			人名
352	L ₁								F			人名
353	L ₁								S			人名
354	D ₁ L ₁		○						S/n 89			人名
355	L ₁								S			人名 bn
356	D _{1α}		○	DL								人名 bn
357	D ₁		○						S/n 88			人名
358	L ₂							17	FS/n 70			人名

359	D ₁ L ₁	○				S	人名
360	L ₂					S	人名
361	L ₁					S 108	人名/句 1行 3語
362	L ₁					S	人名
363	L ₁					S	人名
364	XD ₁ L ₁	○	(○)			LM/LL ^(d) MIN/S ^(x)	人名 bn
365	L ₂					16 F/S 109 ^(y)	人名/文 3~2行 6語
366	L ₃				318	EL F 54	文 2行 5語
367	L ₁					S	人名 dū
368	L ₂					EL F	人名
369	L ₁					S	人名 bn
370	L ₂					EL S	人名
371	L ₂					15 S 110	句/文 2行 3語
372	L ₁					S 111	人名/文 2行 3語
373	L ₂					EL S	人名
374	L ₁					S/n 90	人名 bn
375	L ₂					EL S/n 91	人名 bn
376	D ₃ L ₁	○	13		68	S/n 92	人名
377	L ₁					S	人名 bn
378	L ₁					S/n 93	人名
379	D ₃ L ₁	○	○ ^(z)		54	EL ^(z) F	人名 2行 bn
380	L ₁					F/n 57	人名 bn
381	D ₂	○	○			NA	人名
382	D ₁ L ₂	○				EL F	人名
383	L ₁					F	人名 bn
384	L ₃				319	15 S 92	文 4行 10語
n 194	D _α						人名
251 a	D _α L ₁				308		文 1行 2語
251 b	D _α L ₁				308		文 1行 3語
251 c	D _α L ₁				308		文 1行 6語
402	D _α						人名
403	D _α						人名

Inscription Number	D/L	Dedanite					Lihyanite				JMIL	Note
		GDL	WLT	CLL	BID	WR	GDL	WLT	CLL	WR		
tham 427	L ₁								F 61			文 1行 3語
506	D ₂			D	52							人名
525	D ₂			D/n 26	52							人名
539	D ₁ L ₁	282							F/n 58			文 2行 3語
min 82, 3 ^(a')	L ₁								S			人名
WR 1	D _α					DL 1						人名
2	D _α					DL 2						人名
3	D _α					DL 3						文 1行 3語
4	D _α					DL 4						人名 1
5	D _α					DL 5						句 1行 4語
8	D ₁					D 8						人名
10	L ₁									LL 10		人名
12	L ₁									EL 12		文 1行 4語
15	L ₁									EL/LL 15		人名
16	D ₁					D 16						文 4行 9語
17	L ₁									EL/LL 17		人名
18	D _α					DL 18						文 3行 4語
EDAr 3												
8	L ₂						305		F 26			文 5行 22語
10	XL ₁								F 66		4	句? 1行 6語
11	L ₁								F/S/n28+71 ^(b)			
15	L ₁								F/n 29			
16	L ₁								FS 65		4	句? 3行 5語
17	XL ₂						303		F 14		133	文 4行 3語
19												
20	L ₁								F 10			人名
28	L ₁								F 33			文 5行 14語

29	XL ₂				307	FS 63	4	文 5行 7語
37								
42								
46								
49								
53								
56								
57	L ₁					F(e')		
59								
60	X						25	
63	X						25	
64	L ₁					F		
65								
66 ^(d')	L ₁					F/n 46		人名
68						NA		
69.1-2	L ₁					F		
70	L ₁					F/n 30		
72								
73	L ₁					F		
74						NA		
75.1	L ₁					F		
Plate V ^(e')	(D ₁)	(50)						人名
Cohen pl.								
XV 34 ^(f')	D ₁	(50)		67+p.32				人名
XV 35	D ₁	50 ^(g')						
Hu 256.21								
327	D ₂	50		53				人名 1-
442.1	L ₁					S/n 94		
442.2	L ₁					S/n 95		人名
Ist 0994	X						131	

Inscription Number	D/L	Dedanite					Lihyanite				JMIL	Note
		GDL	WLT	CLL	BID	WR	GDL	WLT	CLL	WR		
Ist 7809	X										131	
7810	X										131	
R 4685												
Ward 1210	D ₁				69+p. 40							人名
1212	D ₁				70+p. 41							人名
fig 708 ^(h')	(D ₁)		(49)									人名
Eut 822 ^(i')	(L ₁)								S			
828 ^(i')	(L ₁)								S			

[付表中の略号・記号説明]

BID …… 文献略号リスト（以下「リスト」）参照。（1）数字は研究された碑文に付された番号。（2）van den Branden が D と考える碑文すべてが扱われているので、本欄に記載のないものは L と判断されていることになる。

CLL …… リスト参照。（1）数字は研究された碑文に CLL で付された番号。（2）W. Caskel の分類 (pp. 22-32) に従い次の略号を記入する。D=Dedanische Inschriften und Graffiti (pp. 22-23, 44個); DL=Dedanisch-lihyanische Graffiti (pp. 24-25, 43個); F=Frühlihyanische Inschriften (pp. 23-24, EDAr 11 を除き29個)+Frühlihyanische Graffiti (pp. 26-27, 91個); FS=Früh-spätlihyanische Inschriften (p. 28, 5 個)+Früh-spätlihyanische Graffiti (p. 28, 16個); S=Spätlihyanische Inschriften (pp. 28-30, 27個)+Spätlihyanische Graffiti (pp. 30-31, 119個); MG=Minäisierende Graffiti (pp. 31-32, 8 個, Caskel に従い L に算入); MIN=Minäische Inschriften und Graffiti (p. 31, n. 98, 29個); NA=Nicht aufgenommene Graffiti (p. 32, 9 個, 理由は CLL を見よ) Caskel は計 420 個を検討の対象と見做すが 8 個 (JS 248, 249, 250, 269, 291, 364, 365, EDAr 57) を 9 回重複させている（複数の碑文と見る）ので JS と EDAr の数え方では 411 個である。従って 44 個を D, MIN と NA を除く 338（又は 329）個を L と考える。（3）Caskel が研究の対象として採り上げない碑文は、註の形で様々なコメントを付しているのので、その脚註番号も記入する（例 n 53）。

Cohen …… M. Cohen, *Documents sudarabiques*, Paris, 1934

D …… Dedanite

DL …… CLL と WR を見よ。

EDAr …… リスト参照。数字は碑文番号を示す。

EL …… WLT と WR を見よ。

Eut …… Julius Euting の集めた碑文。EDAr で D. H. Müller が研究したが、本表で Eut を付した碑文は EDAr（筆者未見）番号が HInC でも確認できなかったものである。

F …… CLL を見よ。

FS …… CLL を見よ。

GDL …… リスト参照。（1）この欄の数字は当該碑文が研究されている頁数を示す。（2）丸印は p. 274 のリストで H. Grimme が碑文番号のみあげて D と判断している碑文・刻文。従って丸印だけのものは詳しく研究されているわけではない。さ疑問符は p. 274 のリストのまま。（3）それ故 JS 碑文について GDL 欄で頁数も丸印も無いものは H. Grimme が L と考えたものである。

Hu …… C. Huber, *Journal d'un voyage en Arabie*, Paris, 1891 数字は頁数を示す。

Ist …… Istanbul Museum 所蔵の碑文。数字はその登録番号を示す。

JMIL …… リスト参照（筆者未見）。数字は頁数を示す。星印^(*)をつけたものは HInC (p. 697) で JS 番号ではなく Eut 番号の箇所に記載されていることを示す。

JS …… リスト参照。この記号を持つ数字は, min, tham, nab[atéen] を伴わないなら、第 1・2 巻で L として扱われている碑文の番号である。即ち JS 77 は JS lih 77 と読む。

L …… Lihyanite

LL …… WLT と WR を見よ。

LM …… WLT を見よ。

MG …… CLL を見よ。

min …… JS の中でミナ語碑文として扱われている碑文の番号に付す。

MIN …… CLL と WLT を見よ。

NA …… CLL を見よ。

R …… =RES リスト参照。

S …… CLL を見よ。

tham …… JS の中でサムード語碑文として分類されている碑文の番号に付す。

Ward …… W.H. Ward, *The seal cylinders of Western Asia*, Washington, 1910

WLT …… リスト参照。(1) 数字は当該碑文の扱われている頁数。(2) 丸印=p. 10, n. 2 に列挙されDと判断されている碑文・刻文120個。従って丸印だけのものは、詳しく研究されているわけではない。(3) EL=closed *mim* を持ち明確に Early (Old) Lihyanite と判断される碑文 (*WLT*, p. 11, n. 5 のリストによるが、呼称は *WPM*, p. 6 による), 計41個。だが註 (m) により JS 221 を LL としなければならないから、実数40個。この他に closed *mim* を持たない EL も勿論ある筈である。(4) LL=Late Lihyanite. EL 以外のリフヤーン語碑文をさすが、ここでは *WPM*, p. 6 で特定されているもののみに記入。(5) LM=Lihyanite texts exhibiting Minaean influence (*WPM*, p. 5), 計16個。(6) MIN=*WLT*, p. 9 で manifestly Minaean とされたもの (JS 18-26, 28-31, 205, 226, 248 a, 324) 17個をさす。しかし JS 226, 248 a, 324 は *WPM* で LM とされた (註 (n), (p), (w)). よって MIN を伴うのは JS 205 のみ。

WR …… *ARNA*, p. 122-9 に報告研究されている碑文。(1) 番号は前掲頁中の碑文番号を指す。(2) DL=“Dedanite or Early Lihyanite” と付されたもの。(3) EL, LL は各碑文に付された Early Lihyanite, Late Lihyanite の略。

X …… JMIL により Lでなくミナ語であるとされたもの (HInC による), 及び WLT, CLL がミナ語と考えたもの。

α …… 当該碑文が CLL か WR で DL の扱いを受けていることを示す。

D_{s-1}/L₄₋₁ …… D と L に付された数字は、当該碑文が D 又は L であると判断した研究者の数。

○(丸印) …… GDL と WLT を見よ。

? …… GDL を見よ。

* …… JMIL を見よ。

[付表に対する註]

(a) 本欄の左端には各碑文の性格を示すために、次のものを記入した。「文」=純然たる碑文;「人名」=人名のみ又は短い前置詞を伴う人名で、大半は所謂刻文 *graffito*。但し刻文でなくとも人名のみより構成されるものもある;「句」=動詞の無い文。1行のみより成る人名の場合を除き、碑文の長さの目安として中央に行数を、右端に総語数を示す。碑文に word divider が無く単語の区切り方をめぐり解釈に異論があれば、疑問符を付す。又人名が bn, dū や冠詞, 前置詞 (l-) を伴っていればそれを右端に記した。

(b) *JS*, vol. 1 (1909) の *inscription minéennes et graffites lihyanites* (pp. 250-270) の項目の中で、ミナ語とリフヤーン語は通し番号を持ち 1~5 はミナ語の部分であるから、記載しない。

(c) *GDL*, p. 274 のリストで疑問符がついている。

(d) JS 18-26, 28-31 の13個の碑文は、JS が L として扱っているものの、WLT (p. 9) と CLL (p. 31, n. 98) が指摘するようにミナ語であるから記載しない。HInC はコンコーダンスに載せていないのに、インデックスでは JS 19, 21, 23, 26, 29, 31 の中の人名を L, JS 20, 25, 30 の中の人名をミナ語として扱い、JS 18, 22, 24, 28 の中の人名には触れていない。ここではコンコーダンスの分類を信頼し、インデックスの中の分類に関しては、膨大な数の中の小さいミスとして無視する。

(e) JS 32, 33, 34 に関して JS は *planche XXX* のスペースのせいか、模写を示さず読みと解釈のみを与えている。HInC は L としているが、GDL, WLT, CLL の誰も積極的に L として扱っていない。模写がないので判断は不可能。

(f) *WLT*, p. 11, n. 5 で EL に分類しつつも perhaps Dedanite と注記している。

(g) *ARNA*, p. 124 で D の記号を付しながら、その直後の説明では L として説明しているので、本表では F.V. Winnet が L と見做しているものと判断した。

(h) *CLL*, p. 24 の分類では正しく JS 124 としているのに、碑文の研究部分 (p. 95) では JS 284 となっている。訂正が必要。

(i) *ARNA*, p. 127 ではこの碑文に D・L の記号を付していないが、その説明中でこの碑文の中の Mt^{al} が、

- 明らかなDである JS 138 の中のデダン王 Kbr'l の父と考えているので、F.V. Winnet がこの碑文をDと見做していることがわかる。
- (j) *WLT*, p. 10, n. 2 でDとしていたが *WPM*, p. 5 で LM と考え直した碑文 (JS 194, 212, 220, 222, 324, 364). 従って Dedanite 欄中の丸印には括弧をつける。
 - (k) H. Grimme は *GDL*, p. 274 でこの碑文をDのリストに入れながら、p. 305 ではL碑文として研究している。従って本表では $L_{1\alpha}$ とする。
 - (l) *GDL* は JS 278 と記しているが、JS 278 はもっと長い碑文であるから JS 218 の誤記に相違ない。但し D_1L_1 とせず L_1 とする。
 - (m) *GDL* は D としているが、*JS*, p. 489, n. (l) では les graffites minéens の中に入れるべきと述べている。しかし *WLT* で EL と考えた F.V. Winnet は *WPM* で LM/LL と見做している。
 - (n) *WLT*, p. 9 でミナ語碑文と判断されたが、*WPM* で LM とされている。
 - (o) JS 本文中にはないが、p. 491, n. (l) 及び *JS*, vol. 2 (atlas), p. LXXXIX, n° 229 bis として挙げられている。
 - (p) *WLT*, p. 9 は JS 248a (1行目) を恐らく 'alif の字形によりミナ語であるとするが、後 *WPM* で LM として扱う。又 *CLL* は JS 248a を MIN とするが JS 248.2 を F (p. 26) とする。
 - (q) *CLL* は JS 249a を MIN とするが JS 249b は F (p. 26) とする。
 - (r) *CLL* は JS 250.1a と JS 250.1b.2 の2個に分ける (p. 26)。
 - (s) *CLL* は JS 269 の1, 2行を MIN とするが、3行目は S (p. 30), 4, 5行は F (p. 26) とする。
 - (t) *GDL*, p. 283 の JS 278 は JS 218 の誤りである。従って L_1 扱いとする。前記註 (l) 参照。
 - (u) *CLL* は JS 291 の1行目を S (p. 30), 2行目を F (p. 26) としている。
 - (v) *GDL*, p. 274 では JS 312, JS 313 をDの中に分類しているが、それぞれ pp. 317-318 でLとして研究しているので、この2個の碑文は $L_{1\alpha}$ として扱う。前記註 (k) 参照。
 - (w) *WLT*, p. 10, n. 2 はDとするが、p. 9 では MIN と判断している。実際 *JS*, p. 518, n. (l) でもミナ語碑文の断片と述べている。しかし *WPM* では LM と考えているのでLに算入する。前記註 (m) 参照。
 - (x) *CLL* は JS 364 の1, 2行を MIN とするが、3行目は S (p. 31) とする。
 - (y) *CLL* は JS 365.1.2a を F (p. 26), JS 365.2b.3 を S (p. 31) として2個に分ける。
 - (z) *WLT*, p. 10 でDに、p. 11 で EL に分類。不注意極まりないので、判断しなかったことにして D_2L_1 とする。
 - (a') JS min 82 の3行目の意で、JS はミナ語と考えている。*JS*, vol. 2 (atlas), pl. CXXIII の模写によれば、本碑文の3行目は JS のように dbdy と読むにしても、最初の3字は1・2行目の d, b, d と明らかに字形が異っている。第1字はD又はLの z、第2・第3字は丸みを帯びている点でLの b, d と判断すべきである。それ故 Zbdy (人名) となる。*HN*C, p. 294 の ZBDY (JS min 82=R 3756) でもそう読んでいるが、ミナ語に分類している。
 - (b') *CLL* は EDAr 11 (Caskel は M 11 とする) を、F (p. 24), S (p. 28) の両者に分類している。
 - (c') *CLL* は EDAr 57 を1-2行目と3-4行目の2個に分け、共に F (p. 26) とする。
 - (d') EDAr 66 は *CLL*, p. 26 では JS min 195 bis としている。*JS*, vol. 2 (texte), pp. 356-7 ではこれに言及していないが、*JS*, vol. 2 (atlas), pl. CXXVIII, GRAFFITES MINÉENS の中に模写がある。
 - (e') ウィーン博物館に所蔵されている宝石に刻まれた碑文なので、通常 (Vienna) gem として言及される。F.V. Winnet はかつてDと考えていた (*WLT*, p. 50) が、*ARNA*, p. 114 では Taymanite と考えている。又 *BID*, pp. 32-4 では thamoudéen du type primitif と見做しているので、今ではこれをDと考えている人は無い。
 - (f') Le Cabinet des Médailles de Paris に所蔵されるスカラベに刻まれた碑文なので、単に scarab/scaraboid として言及されることが多い。Vienna gem と同様に、Winnet は立場を変え (*ARNA*, p. 114) て今では Taymanite と考えている。

(g') WLT がこの碑文を直接扱っているわけではないが、直前の Cohen pl. XV 34 の説明中 (WLT, p. 50) で Cohen pl. XV 35 を D 碑文と記している。

(h') バビロン北方の Anah より出土した円筒印章にある碑文なので、通常 cylinder seal として言及される。WLT, p. 49 では D としていたが、考えを変えて ARNA, p. 114 で Taymanite としている。尚 BID, pp. 29-32 は thamoudéen primitif としている。

(i') L_i に算入しない理由は、「付表中の略号・記号説明」にある Eut の項を見よ。

(1982年3月末脱稿, 8月補筆)

[文献略号リスト]

- ARNA F. V. Winnet-W. L. Reed, *Ancient records from North Arabia*, Toronto, 1970 (Near and Middle East Series 6)
- BID A. van den Branden, *Les inscriptions dedanites*, Beyrouth, 1962, (Public. de l'Univ. liban., sect. des études historiques VIII)
- CLL W. Caskel, *Lihyan und Lihyanisch*, Köln-Opladen, 1954 (Arbeitsgemeinschaft für Forschung des Landes Nordrhein-Westfalen, Heft 4 Abhandlung)
- EDAr D. H. Müller, *Epigraphische Denkmäler aus Arabien*, Wien, 1889 (Denkschrift der Wiener Akademie der Wissenschaften, Bd. 36, 2)
- GDL H. Grimme, "Neubearbeitung der wichtigeren dedanischen und lihyanischen Inschriften", *Le Muston*, L, 1937, pp. 269-322
- HInC G. L. Harding, *An index and concordance of Pre-Islamic Arabian names and inscriptions*, Toronto, 1971 (Near and Middle East Series 8)
- JMIL A. Jamme, *Minaean inscriptions published as Lihyanite*, Washington, 1968
- JS A. Jaussen-R. Savignac, *Mission archéologique en Arabie*, Paris, vol. 1, 1909; vol. 2 (texte) (atlas), 1914; vol. 3 (texte) (atlas), 1922
- WLT F. V. Winnet, *A study of the Lihyanite and Thamudic inscriptions*, Toronto, 1937 (Univ. of Toronto studies, Oriental series No. 3)
- WPM do., "The place of the Minaeans in the history of Pre-Islamic Arabia", *Bulletin of the American Schools of Oriental Research*, No. 73, 1939, pp. 3-9
- その他 ANET, EI, EJ, HO, JSOR, KAI, OLZ, RES, SS は慣用に従う。

上記以外の略号は「付表中の略号・記号説明」を見よ。